

9月20日(月・祝) 9:00~10:00 第2会場(福岡国際会議場 3F メインホール)  
座長: 福岡県薬剤師会 副会長 神村 英利

SL3

### 薬局を地域のソーシャル・キャピタルに： 京都大学 SPH 薬局情報グループの活動から

おかだ ひろし  
岡田 浩

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻  
健康情報学分野 特定講師



薬局は地域住民にとって予約なしで訪れることができる場所であり、そこで働く薬剤師は気軽に相談できる身近な医療専門職である。2000年に世界保健機関(WHO)と国際薬剤師薬学連合(FIP)は、Developing Pharmacy Practice - A focus on patient care(邦訳「薬剤師業務のさらなる展開-患者中心のケアを目指して」)を出し、薬局薬剤師の役割として、従来の調剤業務から、患者へのファーマシューティカルケアの実施を提唱した。この声明が出されて20年が経過した現在、国内では、2016年に「かかりつけ薬局・薬剤師」、「健康サポート薬局」制度、本年度からは「地域連携薬局」制度が始まるなど、薬局薬剤師の業務は大きく広がっている。先行して薬局薬剤師の業務拡大が始まった海外では、薬局での簡易検査や予防接種の実施など、COVID-19のパンデミック下では、一層大きな役割を果たしている。

本講演では、演者が国内の薬局で実施してきた糖尿病や高血圧患者への生活改善支援:COMPASS研究、COMPASS-BP研究などの研究成果について紹介する。さらに2020年に始まったCOVID-19感染拡大時に行った、「薬局でのCOVID-19対策」プロジェクトや、「薬局での緊急避妊薬販売」のための問診票・リーフレット・研修動画を開発し、公開した活動などについて紹介する。

急速に高齢化が進む日本社会の中で、地域の薬局がソーシャル・キャピタル(社会関係資本)として、今後より一層活用が進み、薬剤師の活躍の場が広がっていく可能性について、私見も交えて述べたいと思っている。

#### 略歴

福岡市生まれ

1990年 福岡教育大学 卒業  
1990年-2001年 福岡県小・中学校講師、学習塾講師  
2004年-2016年 (医)岡田内科クリニック(福岡市)、治験事務局長  
2005年 長崎大学薬学部薬科学科 卒業  
2005年-2014年 保険薬局勤務  
2008年- 国立病院機構京都医療センター臨床研究センター予防医学研究室、研究員  
2012年 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻粒子線生物学修士課程修了 理学修士  
2012年- (株)コンパス・プロジェクト、代表取締役  
2016年 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻博士後期課程修了 博士(社会健康医学)  
2017年-2019年 University of Alberta EPICORE Centre, Postdoctoral Research Fellow  
2019年- 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野、特定講師 現在に至る